

P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
小学校（図画工作科）編 ① 概要

校種・学年	小学校・1学年	教科等	図画工作科
題材名	スルスル ビューン！ つくって あそぼう		
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な材料を滑らせて遊ぶものをつくることを通して、形や色などに気付く。 ・はさみや接着剤、粘着テープに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。 〈知識及び技能〉 ・材料を滑らせて感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。 ・自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 ・材料を滑らせて生まれる形や色などを基に、自分のイメージをもつ。 〈思考力、判断力、表現力等〉 ・楽しく身近な材料を滑らせて遊ぶものを表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。 〈学びに向かう力、人間性等〉 		
本時の目標	材料を滑らせて感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。		
本時の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・発 材料を滑らせて感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。 【思考・判断・表現】 		

事例の概要(見どころ)

- ①題材の始まりにおいて、低学年児童が、表したいことを見付けること、どのように表すか考えることを意識した授業実践です。
- ②授業改善の視点として、「主体的、対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学び」「ICTの効果的活用」を意識した授業実践です。

発行：令和6年3月
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/g2201/gakkou/pia.html>



その他のP・I・Aシートはこちら ↑

P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
 小学校 図画工作科 編 ② 指導展開

- 📌 目標
- 材料を滑らせて感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。 (思考力、判断力、表現力等)

- 📌 準備
- 【児童】紙コップ、紙皿、紙筒、空き箱、クレヨン・パス、はさみ、木工用接着剤
 - 【教師】紙コップ、空き箱、紙筒、クリップ、粘着テープ、カラーペン、端紙、紙テープなど

📌 展開 (1 / 3)

過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿(「」)	指導の工夫〇 (〔共通事項〕に係る内容ア____、イ_____)	評価と手立て 【観点】: 評価規準(評価方法) ◎十分満足できる状況 ◆B評価に達しない児童への手立て
導入5分	<p>1 材料を滑らせて動く様子を実際に見た上で、動く仕組みをつくったり、動きを試したりしながら、活動の見通しをもつ。「ビューンって動いたり、ゆらゆら動いたりするね。」 「滑らせてみたら、なんか、いもむしみたいに見えてきたな。」</p> 	<p>【授業改善の視点1】 ICTについては、学習のねらいに応じて必要性を十分に検討し、活用することが大切です。</p> <p>大型テレビで、教師が自分の手元を大きく提示し、動く仕組みを簡単につくれるようにしている。</p> <p>【授業改善の視点2】 主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てることで、自身の学びを自覚できる場面を設定することが大切です。</p> <p>教師は児童が実際につくったり、動かしたりすることで、学習の見通しをもてるようにしている。</p>  	
展開30分	<p>提案：うごくしくみから あらわしたいことを みつけよう。</p> <p>2 材料を滑らせて感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、いろいろな形を考えたりしてどのように表すか考えてつくる。 「紙コップを滑らせてみるといろいろな生き物に見えてくるな。」 「紙コップに羽を付けて、かわいい小鳥みたいにならうかな。」</p> 	<p>【授業改善の視点3】 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を設定することが大切です。</p> <p>教師は児童同士で自然に対話するよう促すことで、新しく表したいことを見付けたり、新しい表し方を考えたりするようにしている。</p> 	<p>【思・判・表 発】材料を滑らせて感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。 (行動観察・対話・表現)</p> <p>◎独創的、連続的に、表したいことを次々と見付け、どのように表すか考えている。</p> <p>◆表したいことを見付からず、どのように表すか考えられない児童には、友人がつくっている様子を見に行くことを勧めたり、材料を滑らせる様子を一緒に見たりしながら児童と対話し、児童の思いや願いを引き出す。</p>

「紙コップを滑らせたなら、空飛ぶ乗り物に見たいに見えたぞ。乗り物に乗る生き物をカラーペンでかこう。」

「乗り物みたいにするために、紙コップを切り開いたものを付けると、いいかもな。」



「紙コップを滑らせたなら、UFO みたいになっただぞ。」

「どうしたら UFO に見えるかな。カラーペンで窓をかこうかな。」



「カッコいいロボットになるように紙筒を使おうかな。いままでにやったみたいに切り込みを入れるとよさそうだな。これを付けたらどのような形になるかな。」



整理
10
分

3 片付けをして、振り返りをする。

「今日は緑色の紙コップがうねうね動いたので、いも虫のおもちゃにすることにしました。いも虫のようになるように、体の模様になるように紙を貼ったり、触角にするために、紙を細く短く切って貼ることを考えました。」



【授業改善の視点4】

学びの深まりをつくりだすために、**児童が考える場面と教師が教える場面**をどのように組み立てるかが大切です。

教師は児童がつくりながら、動き方を確かめることを促すことで、材料を滑らせて生まれる形や色に気づき、自分のイメージをもち、表現と鑑賞が相互に関連するようにしている。

教師は児童が「感性や想像力を働かせ、対象や事象を形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだす」という造形的な見方・考え方を働かせている姿を捉えるようにしている。

教師は児童の活動を見守り、児童が表したいことを見付けているか、どのように表し方を考えているのかを捉え、児童の状況に応じて価値付けを行うようにしている。



【授業改善の視点5】

「個別最適な学び」について「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されており、**児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくこと**ができるよう指導することが大切です。

<指導の個別化>

教師は児童の学習の状況に応じて、児童の思いを理解する声掛け、児童が考えを明確にする声掛け、児童の活動を価値付ける声掛けをする等意図をもって児童と関わっている。

<学習の個性化>

教師は児童一人一人が、材料や用具を選んだり、友人と関わりに行ったり、様々なことを試行錯誤したりできるような場を整えている。



【授業改善の視点6】

他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、「**協働的な学び**」を充実することが大切です。

教師は児童同士が自然に関わり合う中で、作品と一緒に遊びながら、自分たちの作品を見合ったり、感じたことを伝え合ったりして、自分の表現に生かせるように促している。



【授業改善の視点7】

主体的に学習に取り組めるよう**学習したことを振り返ることで、自身の変容を自覚できる場面**を設定することが大切です。

教師は本時の目標を十分達成していた児童2～3名の児童の作品を取り上げ、児童自身が表したいこととして見付けたことや表し方で考えたことを発表するようにしている。また、聞いている児童も自分の作品と比べて気付いたことを発表するように促している。

教師は表したいことを見付けたり表し方を考えたりすることができたかについて問うことで、個々の児童が本時の目標に即して、学習の振り返りをできるようにしている。

